

CASSIOPEIA—UHC達成に向けて、対象の5つの病院における、5つ星に輝く質の高い医療ケアサービスを目指して

JICA ルサカ郡総合病院運営管理能力強化プロジェクト



国際協力機構 (JICA) の知識共創プログラム (KCCP)。修了証を手にする参加者達。東京の国立国際医療研究センター (NCGM)) にて。

国別研修での学び：
医療機器管理と感染
予防管理

薬剤師、州四半期
会議にて行動目標
に合意

医療機器技術者、
州四半期会議にて
行動目標に合意

医療機器管理の
短期専門家が
活動開始



国別研修での学び:医療機器管理と感染予防管理



東京の国立国際医療研究センター (NCGM) で、病院管理、感染予防管理 (IPC)、医療機器管理を中心に医療施設を視察した国別研修 (KCCP) の参加者達。

JICAカシオペアプロジェクトでは、昨年6月から7月に続けて、今年1月にも研修生を日本へ派遣しました。この研修には、ルサカ州保健局、ルサカ郡保健局、および5つの一次レベル病院 (チャワマ、チレンジェ、チパタ、カニヤマ、マテロ) の関係者が参加しました。

ルサカ州保健局の主任看護担当官であるバングエタ氏は、「日本では感染予防管理や医療機器管理のシステムが適切に運用できる環境が整っている」と語りました。



開講式で挨拶をするイヌトユ・バングエタ氏
(ルサカ州保健局主任看護担当官)

バングエタ氏は、ザンビアでも子どもたちへの手洗い指導の徹底や家庭ゴミの分別を促進し、感染予防対策の強化を目指したいと述べました。帰国

したならば、ルサカ州で新たに雇用された看護師と助産師を対象に、看護の倫理・原則、公共サービスの理念に関するオリエンテーションを実施したいと語りました。また、顧客満足度調査をルサカ州内で確実に実施するため、保健省のマニュアルに基づくオリエンテーションも行う計画です。

一方、マテロ病院の医療機器管理部門の責任者であるアーロン・カブウェ氏は、日本の病院では廃棄物の分別が合理的に管理されている点に注目しました。ザンビアでも廃棄物のリサイクルを導入し、収入を生みながらも、環境を清潔に保ちコレラなどの病気の発生を防ぎたいと考えていると述べました。



アーロン・カブウェ氏。マテロ一次レベル病院の医療機器技術者

また、医療機器管理については機材のメンテナンスと修理のためのワークショップのスペースを確保し、修理作業を円滑に進められる環境を整備することが重要と話しました。さらに、在庫管理の効率化のためにタグ付けを進め、各部門に医療機器管理のリンクパーソンを配置することで、医療機器の不具合を迅速に報告・対応できる体制を整える意向を示しました。

ルサカ郡保健局の臨床ケア部長であるチョールウェ・シアンチャパ氏は、「日本の医療従事者は顧客へサービスを提供する意識を持ち、患者さんが良い体験をできる



グループワークに取り組む、チョールウェ・シアンチャパ氏(ルサカ郡保健局診療部長)

よう常に考えている」と話しました。

また、ザンビアも日本も医療施設の管理には、関連分野の専門家チームを編成し、訓練を受けた専門家が全体を指揮していますが、日本の医療施設では、管理に最新のテクノロジーを活用している点に注目しました。多くの施設ではバランストスコアカード(BSC)を導入し、事前に設定した目標に基づいて運営している点に注目し、ザンビアでも活用できると語りました。例えば、ルサカ郡保健局が所管するプロジェクトの対象病院以外の医療施設でも標準作業手順書(SOP)とこれに関

連するIPC活動を拡大するために、IPC委員会の設立を進めると述べました。また、医療機器の安全管理委員会を設立し、施設全体でバランストスコアカードを活用することで、目標による管理(MBO)を取り入れる計画です。さらに、すべてのエンドユーザーが機器の清掃と消毒を行う体制を整備すること、四半期ごとに感染予防管理と医療機器管理の合同会議を開催することにも注力する考えを示しました。計画的予防保全(PPM)のための標準作業



IPCラウンドに参加する参加者たち。国立国際医療研究センターにて。



廃棄物処理の施設を見学する参加者達。国立国際医療研究センターにて。

手順書(SOP)を医療機器管理部門が作成し、運用することも考えています。

チレンジェ病院の環境保健技術者であるクライド・ウシバントゥ氏は、「日本の講師陣の献身的

な指導と時間管理の厳格さ、効果的な意思疎通を重視する姿勢に感銘を受けた」と語りました。

また、訪問した病院では万人に利益をもたらすという理念のもと、苦痛や不満を取り除き、満足を感じてもらえる医療の提供を目指す「自利利他」の原則が採用されていました。医療機関の責任者がスタッフに対して患者中心の医療に関する研修を促す点も印象的でした。ウシバントゥ氏は、環境保健部門でもバランススコアカードを活用し、手術部位感染（SSI）の予防のために、データを活用する

方針を示しました。また、感染予防管理と医療機器管理の連携をより強固にし、院内感染を防止するため、使用後の医療機器の清掃と消毒を徹底することの重要性を強調しました。

JICAの国別研修は、JICAが世界各国のカウンターパートに対して行う人材育成を目的とした技術協力の場合です。今回の研修には、ルサカ州保健局、ルサカ郡保健局、プロジェクトの対象と5病院の関係者が参加しました。今後、日本での学びを活かしてザンビア国内の医療体制の強化に向けた具体的な取り組みを進めていく予定です。



本研修の修了証書を受け取るウシバントゥ氏（チレンジェ一次レベル病院の環境保健技術者）



研修講師との記念撮影

薬剤師、州四半期会議にて行動目標に合意

2025年2月26日（水）、新型コロナウイルスの蔓延以来、初の対面開催となる州四半期会議に出席すべく、ルサカ郡の対象5病院、ルサカ郡保健局、ルサカ州保健局の薬剤師がルサカ州保健局に集まり、医薬品管理の現状や課題と各病院のグッドプラクティスを議論しました。

参加者は、3月末までに達成する8つの行動目標に合意しました。まず(1)サテライト薬局の運用の標準化を目的として、チャワマ、チパタ、マテロの病院担当者が、既にサテライト薬局を運用しているチレンジェ病院とカニヤマ病院を視察します。また、各病院で現在ばらばらの様式で作成されている(2)薬剤情報は標準テンプレートを作成します。さらに、(3)まだサテライト薬局を導入していないチパタ病院、マテロ病院、チャワマ病院でサテライ

ト薬局の運用を始めることも目標となりました。その他、(4)チパタ病院とチャワマ病院で薬剤師による病棟ラウンドを開始すること、(5)処方箋充足率(PFR)のデータ収集ツールを開発すること、(6)物資供給の輸送手段の利用方法について指針を策定することにも取り組みます。(7)薬剤師が質改善(QI)プロジェクトに取り組むためのオリエンテーションを実施したり、感染予防管理の担当者と協働して(8)抗菌薬の適正使用の取り組みを活性化させたりする目標も含まれました。

この病院横断的な四半期会議は、ゆくゆくはプロジェクトの対象5病院の枠を超えて、ルサカ州全体の医薬品管理と患者サービスの向上につながる業務の標準化や関係者の合意形成を促す場となることが期待されています。



アブラハム・ムケセラ氏（ルサカ州保健局主任薬剤師）。ルサカ州保健局で開催された四半期薬剤師会議にて。



シフィウェ・マコワネ氏（チレンジェ次レベル病院薬局長）。これまでの進捗とグッドプラクティスの発表にて。

医療機器管理の短期専門家が活動開始



レヴィ・マナワサ大学教育病院(LMUTH)にて、バイオメディカルエンジニアのグッドブラクティスについて議論。左から、アイザック・チョラ氏(レヴィ・マナワサ大学教育病院のバイオメディカルエンジニア)、安食和博氏(短期専門家:医療機器管理)、マタフワリ氏(ルサカ郡保健局医療機器技術者)

2025年2月15日(土)、医療機器管理の短期専門家である安食和博氏がザンビアに到着しました。安食氏は、アフリカ諸国を含むさまざまな国で医療機器管理の国際協力に携わってきた経験豊富な専門家です。本派遣に先立ち、1月に日本で開催された国別研修にも参加し、現地の関係者とも既に顔なじみとなっています。

安食氏は、ルサカ州保健局の主任医療機器担当官のクリストファー・シンカラ氏、ルサカ郡保健局の医療機器技術者のフライデー・マタフワリ氏とオベッド・サムシク氏、そしてプロジェクトの対象5病院(チャワマ、チレンジェ、チパタ、カニャマ、マテロ)の医療機器技術者および生体医工学技術者(バイオメディカル・エンジニア)と連携しながら活動を進めます。

カシオペア・プロジェクトでは、対象5病院における医療機器管理能力の強化を重点目標の一つに掲げています。安食氏の活動が目標とするのは、ザンビアの実情を理解した上で、医療機器管理の担当者や看護師、

行政官等と協力して、対象5病院が医療機器の損傷を最小限に抑える予防的保全の活動を始めることです。

安食氏は、施設訪問で多くの医療機器が故障している現状を目の当たりにしました。「なぜこのようなことが起こるのか、故障や損傷の原因を分析し、対策を講じる必要がある」と述べ、医療機器担当者と故障事例およびその原因を共有することで、機器の故障を防ぐ取り組みを進める考えを示しました。

また、ザンビアでは、既存の医療機器技術者(MET)と新たに育っている生体医工学技術者(バイオメディカル・エンジニア)の役割を明確にし、連携を強化することも重要な課題です。医療機器技術者(MET)は医療機器に限らず、自動車の部品や電気設備も扱いますが、バイオメディカルエンジニアは医療機器が専門の技術者です。「将来的に、効率的に業務を遂行するためには、それぞれの専門性を活かした役割分担を明確にする必要があるだろう」と指摘しました。

医療機器技術者、州四半期会議にて行動目標に合意

薬剤師の州四半期会議の翌日、2月27日(木)には、同じくルサカ郡の対象5病院、ルサカ郡保健局、ルサカ州保健局の医療機器技術者(MET)は初の州四半期会議に出席すべく、ルサカ州保健局に集まり、医療機器管理の現状と課題、各病院のグッドプラクティスを議論しました。

参加者は、JICAの国別研修と課題別研修で得られた学びと帰国後のアクションプランを共有し、各病院および郡全体にわたる課題解決に向けた具体的なステップについて意見を交わしました。参加者は、3月末までに達成する6つの行動目標に合意しました。まず、(1)ジョブリクエストカードの標準的な利用方法を作成することが挙げられました。登録のための様式をプロジェクトが提供しましたが、その運用方法は各病院でばらつきが見られていた分野です。その他、(2)医療機器受領一覧を作成する手順の明確化、(3)医療機器技術者の人材不足の解消に向けた継続的なロビー活動が挙げられました。JICAは、州・郡保健局の担当官と一緒に現地を視察する機会を増やし、既存のガイドラインおよびこれから

できあがる標準作業手順書(SOPs)を各病院に提供する部分を支援します。

州保健局のシムリアマナ・チョオンガ局長に代わって、臨床ケア専門家のソフィア・ムシスカ氏が挨拶し、各病院で患者の安全とケアに尽力している参加者を称賛しました。氏は、この四半期会議の場で、グッドプラクティスの共有が進むと同時に、日々の業務で直面する課題の解決策を模索する場となることも期待しました。また、ムシスカ氏は、問題解決には革新的なアプローチが求められると述べ、JICAカシオペアプロジェクトとのパートナーシップから得られる知識を活用することの重要性を強調しました。プロジェクト終了後も取り組みが継続されることを望んでいると発言しました。

カシオペア・プロジェクトのチーフアドバイザーである村井真介氏は、州四半期会議が担当者のコミュニケーションと参加者がお互いに学ぶ場となること、病院のグッドプラクティスに着想を得て、州・郡で標準的に展開できるSOPsを作成すること、郡や州にまたがる課題を議論する場となること、の3点を期待していると述べました。

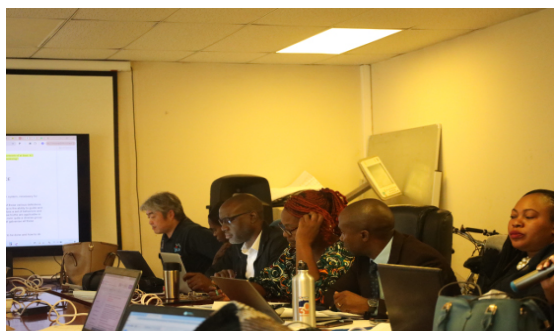


州四半期会議で挨拶するシンカラ氏
(ルサカ州保健局主任医療機器担当官)



グッドプラクティスを発表するダリウス氏
(チャワマ病院医療機器技術者)

PHOTO FOCUS



2025年2月13日、第3回病院マネジメントハンドブック・ドラフティング会議の参加者たち



2025年2月27日に開催された医療機器管理の州四半期会議で開会の挨拶をするムシスカ氏（臨床ケア専門家兼パブリックヘルス専門家）



マテロ病院の感染予防管理（IPC）チーム。
2025年2月11日に第5回IPCラウンドを実施。



2025年2月26日にルサカ州保健局で開催された州四半期薬剤師会議の参加者たち。



安食和博氏（短期専門家：医療機器管理）、医療機器技師、バイオメディカルエンジニア。大学教育病院のバイオメディカルエンジニアのワークショップにて。



2025年2月25日、カニャマ病院にて、外科手術の安全性と手術後感染（SSI）予防のための患者チェックリストを議論する法月正太郎氏（前チーフアドバイザー）



東京での国別研修（KCCP）の開講式で自己紹介するキャセル・チブーラ氏（ルサカ州保健局、主任環境保健技術者）。

編集・デザイン：コンベ カパタモヨ

編集：緒方 敬

編集長：村井 真介

連絡先

村井 真介 ルサカ郡病院運営管理能力強化
プロジェクト チーフアドバイザー

住所：Plot No.11743A, Brenwood Lane,
Longacres. P.o. Box 30027, Lusaka,
10101, ZAMBIA

Cell: +260 765 192 865 (official)